

平成30年度「世界エイズデー」キャンペーンテーマフォーラム報告 「一緒にテーマを考えよう」

2018年5月14日（月）19:00～20:30 「chotCAST」コミュニティセンター 出席者15名

■開会あいさつ（公益財団法人エイズ予防財団 白阪琢磨理事長）

4月に着任しました。日頃からHIV／エイズの検査・相談・支援・啓発等、さまざまなご協力をいただき、この場を借りて御礼申し上げます。本日は忌憚のないご意見をお願いします。

■趣旨・策定プロセスの説明（公益財団法人エイズ予防財団 宮田一雄理事）

- ・世界エイズデー国内啓発キャンペーンのテーマは平成22年度以降、API-Netの意見公募とフォーラムを通じ、現場に近いところでテーマの候補案を探り、どんなメッセージが必要なのかを検討してきた。6月の検討会議を経て1～2案をエイズ予防財団から厚生労働省に提案したい。エイズ予防情報ネットの意見募集は6月4日（月）まで続くので、フォーラム終了後も積極的に投稿してほしい。宛先は theme@jfap.or.jp
- ・一昨年までの3年間は「AIDS IS NOT OVER」を共通のキーワードとしてテーマを設定した。継続性を重視したからだ。昨年度のテーマは「UPDATE！ エイズのイメージを変えよう」だった。HIV／エイズへの対応は治療の進歩を含め大きく変化しているのに、イメージは未だに1990年代のまま固定されている人も多いと考えたからだ。テーマの継続性も考えつつ、できれば今年度もキーワードとして「UPDATE!」を生かす可能性を含め、ご意見をうかがいたい。

■地方自治体のキャンペーンテーマ使用状況について（同財団 堀内由紀）

- ・昨年度テーマ「UPDATE！ エイズのイメージを変えよう」の使用状況について144自治体に調査した（資料1）。昨年7月のテーマ決定以降～本年1月までに、全体の70%にあたる101自治体がこのテーマを使用していた。使用方法は、啓発資材への盛り込み、HPへの掲載・リンク、講座・講演会等での説明、パネル展示、ラジオ・新聞・イベント会場での紹介等である。使いやすかったとする回答が多数を占め、その理由としては「アップデートという用語に馴染みのある若年層に浸透しやすい」「テーマ設定の理由が納得でき、説明しやすかった」「紙面、画面で見たとときのインパクトがあった」などがあげられ、「ひき続きポジティブなテーマを扱っていただきたい（治療法が進歩してきていること、予後が改善されてきていること等）」という意見もあった。
- ・昨年度テーマ入りポスター紹介（当財団作成）（資料2）

ディスカッション

■司会・進行（同財団 辻宏幸）

■参加者からは以下のような意見が出された。

《HIV／エイズに対するイメージ》

- ・性交渉があるなら検査に行くのは当たり前だよ、ということが簡単な言葉で伝えられないか。検査に行くことには、まだネガティブなイメージがある。10代の若い世代からも、感染したらあと何年ぐらい生きられるのかと問われる。そうしたイメージを変えたい。
- ・外国人受検者が増えているように思う。検査の大切さを言葉というより心で伝えていきたい。
 - 外国人の受検件数は母数が少ないので見えにくいですが、増えている感じがする。留学生で陽性が判明するケースもある。
 - 受検者のパートナーが外国人の場合もある。

→外国人に伝える方法も各現場で考える必要がある（多言語対応等）。

- ・「UPDATE」は若者の耳に入りやすい言葉だと思う。最近ではMSMがパートナーと一緒に検査場に来ることもある。一方で介護事業者等にはHIV/エイズがまだ身近ではない層、あるいは年齢が高い層などでHIV/エイズの過去のイメージをぬぐい切れない人も多い。
 - 医療関係者や福祉関係者の間でも過去のイメージがアップデートされていない場合が多い。
 - 医療関係者でもそれぞれの専門分野から一歩外れるとアップデートできていないことがしばしばある。介護関係者もすべての領域をアップデートするのは難しいだろう。だからこそHIV/エイズの基本的な部分を広く伝えることが必要だと思う。
 - HIV陽性者が高齢になり、介護を必要とする人が今後は増える。
 - 医療機関や介護施設の場合、HIV陽性者の受け入れを経験すると対応が変わることが多い。未経験だと身構えてしまう。
- ・国際エイズ学会(IAS)の2018年の年次書簡のタイトルは『AIDS IS STILL POLITICAL』（エイズはいまなお政治的課題である）だった。治療の進歩と普及で、年間の死亡者数は以前より大きく減っているが、新規感染はそれほど減っているわけではない。治療が普及しても、社会的な差別・偏見が残っている状態では、本当に届けたい人にはなかなか届かない。したがって、いまなお政治的な課題としてエイズの流行をとらえる必要がある。治療の劇的な進歩を有効に活用するには、誰が危機に瀕していて、その危機と闘うにはどうしたらよいかを考えていく必要がある。
 - 検査や治療は本来必要としている対象に届けるべきだ。そのためには焦点を絞った施策が必要になるが、そうした施策は広く社会の理解がないと継続できない。現場を支え、同時に社会的な共感を得られるメッセージが必要。
- ・エイズ対策関係者には当たり前と思うことが世間ではそうではないこともある。
 - 日本の現状を見れば、新規の感染者数・患者数は1500件前後で横ばいの状態が10年も続いている。もちろん減少することが望ましいが、この状態で横ばいを維持していること自体も実は重要な成果と言える。エイズ対策関係者の努力を表す数字ではないか。
 - HIV/エイズ対策の厳しいところは短距離走ではないこと。油断したらすぐに増加する。
- ・キャンペーンテーマを通して、治療の状況が広く社会に見えてくるとよい。過去のテーマでも治療は取り上げていない。HIVの現状の見える化が必要だと思う。
 - 予防と治療の情報をアップデートする必要があると思う。
 - 治療の状況が見えることによって、ネガティブなイメージが変わるはずだ。
 - 感染したらおしまいだ、と思わないでほしい。
 - 逆に、「エイズはもう治るのでしょうか？」と聞かれることがある。
 - 「死に至る病気」と「治る病気」というイメージはどちらも誤って伝わりやすい。一つのメッセージで双方をカバーするのは難しい。
 - テーマは一つだが、そこから生まれるメッセージは幅広くてよいと思う。
- ・近年のテーマの中で、平成25年度の「恋愛の数だけHIVを語ろう」は少し異質な印象を受ける。
 - API-Netの公募案が採用された。テーマ検討会議でも好評だった。
 - 「UPDATE！」もこれまでと少し流れを変えているように思う。実際に、1日1回の服薬、服薬コントロール可能、感染リスク低下、など良い方向にイメージが変わっている。今はまさに転換期なのではないか。
 - 現場の感触が大事。
 - 治療は進歩した。それでも検査を受けない人はいる。なぜ受けられないのか。そこを考える必要がある。過去のイメージがあり、検査が怖いと思う人もいるのではないか。
 - 受検者の中にはHIVとエイズの違いがわからない人も多い。どういうアプローチでメッセージを伝えるべきか。
- ・「UPDATE」を引き続き生かすとすれば、次は、一人一人の意識を変える、あるいは社会全体の行動を変える、という流れにつながるとよいと思う。あるいは「UPDATE」→「UPGRADE」→「UP・・・」とUPを少しずつ変化させるのはどうか。

- HIV／エイズは日本の問題として取り上げていない気がしていた。アフリカの問題で、患者さんがやせ細っていく、あるいはやせ細った患者さんが次第に（治療により）ふくよかになる、そんなイメージだ。日本の現状はベールで包まれていた。ところが自分で実際に検査を受けてみると、身近な問題として捉えるべきだと感じた。HIV／エイズはもっと身近な問題だということをメッセージに盛り込みたい。
- 結婚するからとか新しいパートナーが出来たからという理由で、パートナーと一緒に受検する人も最近が増えてきた。検査後は「思っていたよりも簡単な検査だった」という声が多い。
→初回検査のハードルが高い。
- テーマを3年で一括りと考え、今年度は治療に焦点を当てたらよいのではないかと。1日1回1錠など希望や光が当たる前向きなテーマになればよいと思う。
- 映画「フィラデルフィア」のイメージが強く、エイズ＝死と思っていた。セックスはおおっぴらにできない話題で、セックスから派生する性感染症となるとますます話しにくい。HIV／エイズについて話せない社会的環境をアップデートしたい。
→自身がアップデートするのに響いた言葉はあるか。
→1日1回という治療薬の進歩はインパクトがあり、イメージを大きく変えた。
→1日1回服用すれば平均寿命を生きられる時代ならば、今こそ検査を受ける時代なのではないか。
- ネットサーフィンの影響かもしれないが、10代でHIV／エイズを死の病と思っている人も多い。学校の先生自体が正しい知識をもっていないのではないかと。文部科学省に働きかけて、ローティーンからきちんと教育できたらよいと思う。
- 「UPDATE」のこのポスターはすごくよい。テーマが決まったときにポスターがあるとよい。
→テーマ決定後は、HIV／エイズ対策のそれぞれの現場で、テーマを生かした展開ができれば理想的だ。それができれば、少しずつ前進するのではないかと。

■閉会あいさつ（公益財団法人エイズ予防財団 宮田一雄理事）

本日は非常に幅広い意見をいただいた。「UPDATE」自体には違和感がなさそうだが、これに続くメッセージが何かが大切だ。本日のフォーラムやネットを通じた意見を参考にし、本年度も有効なメッセージが打ち出せるよう努めたい。